



伊勢神宮

初代の神武天皇から数えて十代目の崇神天皇の御代に病気がしきりにはやつて人々が苦しみ、国土が荒れ果てました。

たいへん心配された崇神天皇は、天つ神・国つ神を拝み、ご自身の振る舞いを深く反省なさると共に、それまで宮殿の内にお祭りしていた天照大御神を姫御子の豊鍬入姫命に託して、近くにお宮を建ててお祭りなさいました。また、大和国の神々を祭る神主やその制度をととのえて、丁重にお祭りなされました。すると、病気が鎮まり、作物も豊かに実って、お百姓にも笑顔が戻るようになりました。

つぎの垂仁天皇は、ご自分の姫御子、倭姫命に再び天照大御神を託して、広く国全体をお守りいただくのに最もふさわしい場所を探させました。倭姫命が、あちこちと探し歩いて、伊勢国に着かれた時のことです。「この神風の伊勢国は、常世の波の重波帰する国なり。傍国のうまし国なり。この国に居らむと欲ふ」という天照大御神のお声が倭姫命に聞こえました。

そこで、この地が大御神が鎮まります神宮をお建て申し上げ、倭姫命は、大御神にお仕えるため、いみこもる齋宮として「磯宮」を五十鈴川の川上に建てられました。

それ以来、伊勢神宮では、国を守る重要な祭りはもとよりのこと、朝な夕な天照大御神に食事(神饌)をお供えするお祭りが、絶えることなく行われています。

○私たちの家庭では、神棚の神札(神宮大麻)を通して天照大御神さまをお祭りしています。